

What's happening?

日本で分かったこと

工学部建設工学科3年
HUYNH THI HUYEN TRANG フィン ティー フェン チャン
 [ベトナム社会主義共和国]

高校を卒業したばかりの私は家族と離れて日本へ留学に来ました。世界の強大国で勉強とともに、違う世界で自由な生活ができ、日本のいろいろなどころへ遊びに行き、新しい生活を楽しく始めようと頭の中でいっぱい考えました。しかし、思ったより平たんな道ではなかったです。19歳の若さで日本に来てから一人で暮らすようになって学費も全部自分で負担しなければならぬ。頭の中にバイトと勉強しか考えられなかった。学校が終わったらバイト、バイトが終わったら勉強というのが私の生活でした。日本語の壁があるので困難なことが山ほどありました。「もうだめだ」「諦めよう」「お父さんとお母さんのそばに帰りたい」と考えたこともあります。本当に辛かったです。その時、日本人の恩人、家族、友達は応援してくれて、力になってくれたので自分で乗り越えることができました。

はなく世界の各国のことも勉強するようになりまし。友達がいっぱいできたきっかけで、いろいろな体験ができました。勉強とバイトが忙しくても日本にいたる間にチャンスがあったら少しずつ日本の文化、習慣を体験できるために交流会に参加したり、着物を着たり、茶道を体験したり、阿波踊りに参加したりしました。毎日学生生活を楽しく過ごしています。

あつというまに来日、もう4年目になりました。4年間に辛いことがあったからこそ、人生の意味を見つけることができました。家族の大切さ、人と人の絆、努力の意味、将来のやりたいことが分かることによって自分がだんだん成長しています。世界各国を繋ぐかけ橋の技術者になるのが私の目的です。それから、「母国のために役に立てる」「自分が良い生活ができるより社会に貢献ができる」という技術者になりたいと思います。日本に来て先進の技術を身につけることができ本当に良かったと思っています。例えば4年前に戻っても私はまた、日本に留学することを選びます。

1年半の努力の成果、やっと大学に入ることができました。自分の目的ができ、苦勞の成果が出たのでなにもより嬉しいことだと思っています。この1年半で頑張るとい言葉の意味が分かりました。大学で日本の建設技術を勉強しながら、さらに日本の文化だけで



阿波踊り

日本の恩人方、学校の



お寺にまゐりました

先生、両親、先輩、友達……。皆さんに心から感謝しています。外国での留学生活が大変だと思いますがこれからも留学生たちは一緒に頑張りましょう!



弁論大会



神社



留学生パーティー

行ってきました

テキサス滞在記

大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
 口腔顎顔面矯正学分野

泰江 章博 やすえ あきひろ

2005年10月から2008年9月までアメリカ合衆国テキサス州のテキサス大学ヒューストン校歯学部ならびに同州ダラス市にあるベイラー歯科大学にて研究留学する機会を得ました。

アメリカ合衆国中南部でメキシコと国境を接するテキサス州は、アラスカに次ぐ全米第2位の面積をもつ広大な州です。歴史的にテキサス共和国として独立していたこともあってか愛州心が高いようで、星条旗だけでなく州旗を掲げている光景が多く見られました。

最初の勤務地であったヒューストン市は州南東部に位置し、ニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴに次ぐ全米第4の人口を抱える都市です。この街は、フロリダ州のケネディ宇宙センターで打ち上げられたスペースシャトルを管制するジョンソン宇宙センターがあるため宇宙開発関連で名高い一方、医療・研究機関の世界最大の集積地であるテキサスメディカルセンターがあることでも知られており、世界各国から多くの医療関係者・研究者が、情報収集や技術習得に訪れています。

センター内の有名機関としては MD アンダーソン癌センターやベイラー医科大学が挙げられ、私の勤務していたテキサス大学歯学部はその隣に位置していました。この一大医療センターでは何らかの新しい施設が常に建設中で、現在も拡大を続けています。徳島



海外体験記
 [左]ジャパンフェスティバル
 [右]NASAジョンソン宇宙センター

大学は平成16年にテキサス大学と姉妹校提携をしましたが、それ以来学生ならびに教官の交流が年々盛んになってきているようで、すでに訪れたという読者も多いのではないのでしょうか。ちなみにメディカルセンター隣にあり日本庭園も備えたハーマン公園では、毎年4月にジャパンフェスティバルなるものが2日間にわたって開催され、多くの現地邦人が様々な催し物を企画し、盛り上がりを見せていました。

さて、仕事のほうですが、骨の領域では非常によく研究されている Runx2 や Twist といった遺伝子の歯の発生における役割の解明を目的として、Dr. Rena N. D'Souza の研究室で行っていました。研究生生活は、当初ヒューストンで送っていましたが、途中、ボスの他機関でのポジション獲得に伴い、同じテキサス州ではありますがヒューストン市から北へ400 km に位置するダラス市に引っ越しをすることになりました。新しい勤務先のベイラー歯科大学は100年以上の歴史を誇る古い大学でしたが、臨床・研究ともに現在も歯科界の中で高い水準を保っています。

ところで、テキサスというと年中暑い所というイメージを勝手に持っていましたが、ダラスも夏こそ暑いものの、冬には水たまりも凍れば雪も降り、コートすらそれほど必要としなかったヒューストンとの違いに驚かされました。

海外留学など大して珍しくもない時代ですが、やはり多くの方が感じるように、他国に住むことで歴史・伝統・文化といった様々な面で改めて日本の素晴らしさを認識しますし、何より人生において大変良い勉強・経験になったのではないかと思います。様々な国の友人ができたことも財産で、海外出張時での再会が楽しみです。

今回このような貴重な機会を与えてくださいました森山啓司教授(現東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野)ならびに不在中にご迷惑をお掛けしました教室の諸先生方に厚く御礼申し上げます。



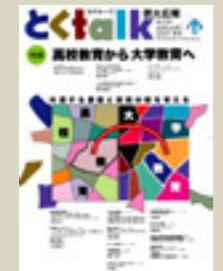
メディカルセンターの一角

テキサス共和国初代大統領 サムエル・ヒューストン像



友人らと(中央が筆者)

冬号特集「高校教育から大学教育へ」を読んで



- 現在の生徒・学生の実態、高校教諭・大学教員の努力がよく解り良かった。
- 若年層の減少に対し、学生数の確保と学力水準の維持とを両立させるために、様々な工夫をされていることがわかりました。同時に、大学の教育でそこから始めないといけないということであり、社会の将来について不安が高まりました。
- “高大連携”自身が何なのかについての解説が1頁ぐらいあっても良かったのではないかと思います。
- 高校1、2年生の方々に読んでもらいたいと思える内容でした。在学生としても興味のある話題ですが、高校生に見てもらおう機会を作っていただきたいです。(オープンキャンパスなど)

とくtalkへのご意見

- 構成が少しマンネリ化してきている感があります。多少違う観点から構成してみるのはいかがでしょうか。
- 今回(2009冬号)の「がんばれ徳大」のように広く活躍している本学出身者を取り上げるのは良いと思います。是非、在学生との対談などを記事にして下さい。在学生にも参考になることと思います。
- 編集委員会では構成を随時見直し、新鮮な記事をお届けするように努力しています。学生や卒業生の活躍を紹介する記事は好評を頂くことが多く、また学生の日常生活を紹介してほしいのご意見もあり、現在は学生が編集するページの設置を検討しています。今後いろいろな観点の記事を企画しますので、皆様のご提案をお寄せください。(宛先は裏表紙をご覧ください。)

読者の言葉